



令和8年度
地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター
年度計画(案)(概要)

～ 寄り添う医療、拓く研究 ～

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター



第四期中期計画（令和5年度～令和9年度）の概要

- 三つの重点医療に加え、高齢者糖尿病を新たに重点医療として位置付け、**フレイルの視点をより一層重視した早期からの「予防し、治し支える医療」**を「高齢者医療モデル」として確立・普及
- 新興・再興感染症を踏まえた感染症対策や、首都直下型地震等に備え**災害医療の取組**を強化
- **老化のメカニズムや老化制御**などの自然科学的な研究並びに疫学調査や社会調査などによる社会科学的研究を推進
- 病院と研究所が一体となり、**認知症未来社会創造センター、フレイル予防センター、スマートウォッチ等のデジタル機器を用いた健康づくりに関する研究プロジェクト**の取組を推進
- **DXを積極的に推進し**、研究、経営基盤強化を図り、財務内容の改善を実施

令和8年度計画のポイント

～各部門を横断的に結合し、医療と研究の一体化を推進～

病院部門

- **四大重点医療**を中心として、フレイルの視点をより一層重視した「高齢者医療モデル」の確立・普及に向けて、高齢者の特性に配慮した適切な医療を提供
- **救急患者を積極的に受け入れるとともに、地域医療支援病院**として紹介患者に対する医療提供を推進し、地域における効率的な医療提供体制を構築

研究部門

- 自然科学と社会科学の両分野の研究の推進と社会還元
- 病院部門と連携した**IRIDE**の第2期として、取組の一層の推進
- **バイオバンクの運営体制を整備**し、広報活動を積極的に展開するとともに、生体試料や臨床データの内部・外部提供を推進

経営部門

- 病院経営を取り巻く環境が厳しい中、積極的に医業収益を確保するとともに、可能な限り費用の削減を行い、**経営基盤の安定化**に努める
- 全職員を対象とした情報セキュリティ・個人情報保護・コンプライアンス研修を実施し、**職員の意識向上と事故の未然防止**に努める
- 高齢者の医療や介護を担う専門人材を育成する



①-1 高齢者の健康長寿を支える医療の提供・普及

四大重点医療（血管病、高齢者がん、認知症、高齢者糖尿病）を中心に、フレイルに配慮した、患者が安心できる医療提供体制を推進

◆血管病医療

- ・ **拡大したSCU病床を活用**し、脳卒中患者などに対して、各診療科で連携しながら基礎疾患、他血管疾患の有無を考慮した医療を提供するとともに、脳卒中におけるフレイルへの影響を考慮し、機能回復、機能温存を図る

■ 令和8年度目標値
 ICU稼働率 65%
 SCU稼働率 90%

- ・ 脳血管疾患における機能回復、機能温存に向けた**早期リハビリテーションを実施**し、**早期退院支援**を推進
- ・ 重症心不全患者に対し、経カテーテル的大動脈弁治療（TAVI）、補助循環用ポンプカテーテル（Impella）による高度な治療を実施
- ・ 不整脈に対する高周波心筋焼灼術（カテーテルアブレーション）やペースメーカー治療を実施
- ・ **心不全看護外来**において、セルフケアを支援して心不全の急性増悪を予防するとともに、地域連携を推進し、心不全患者の望む暮らしの支援の充実を図る

■ 令和8年度目標値
 心不全看護外来患者数 180件

~R5.11	R5.12	R6.2	R6.6	R6.7
6床	8床	9床	12床	15床

【SCU病床数の推移】



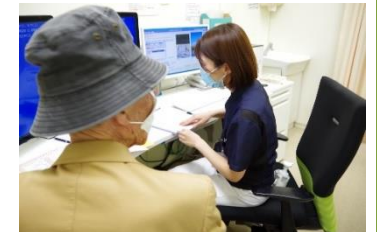
【SCU病床】



【カテーテルアブレーション】



【血管造影装置（R7更新）】



【心不全看護外来】



①-2 高齢者の健康長寿を支える医療の提供・普及

◆高齢者がん医療

- ・フレイル評価を含む包括的な全身精査のもと、**ロボット支援下・胸腔鏡手術**による低侵襲な肺がん治療を実践し、地域医療機関と連携して、**地域全体で質の高い医療を提供**
- ・泌尿器、消化器にかかるがん治療においても、ロボット支援下手術による低侵襲な手術を推進

■令和8年度目標値

ロボット支援下手術件数

肺がん 20例、前立腺がん 20例、直腸がん 24例、結腸がん 10例

- ・外来腫瘍化学療法を推進するほか、放射線治療科と各診療科が連携し、乳がん、消化器がん、泌尿器疾患などの対象疾患に対し、**治療・緩和双方からのアプローチで適切な放射線治療を実践**
- ・各診療科において、専門・認定看護師、認定薬剤師、MSW等と連携するとともに、緩和ケアチームやがん相談支援センターも活用することで、がん患者及びその家族に対し適切な医療を提供



【手術支援ロボット da Vinci】



【緩和ケア病棟の様子】

◆認知症医療

- ・**アルツハイマー型認知症の抗体医薬であるレカネマブ、ドナネマブを投与できる体制**を引き続き整備、拡充
- ・投与から半年が経過し、安全に投与を行っている患者については、連携医療機関において投与を継続
- ・レカネマブ等に係る重大な副作用として知られるARIAの評価体制など、**レカネマブ等の安全な投与に関する体制**を構築、維持

■令和8年度目標値

年間投与症例 60例

- ・認知症を合併した入院患者のリハビリテーションでは、身体能力の向上に加え、**認知機能や生活機能の改善**を目指した介入を推進
- ・**認知症疾患医療センター**として、**多職種チーム**が専門性を生かした受療相談や、連携医療機関からの紹介による**緊急入院対応**、地域連携機関の要請を受けて認知症高齢者を訪問する**アウトリーチ活動**を実施するなど、認知症医療・福祉へ貢献



アルツハイマー病 新治療薬「レカネマブ」患者への投与始まる

【レカネマブ投与に関する報道】



【認知機能の改善を目指したリハビリテーション】



①—3 高齢者の健康長寿を支える医療の提供・普及

◆高齢者糖尿病医療

- ・ **糖尿病看護外来**において、インスリンポンプやCGMなどの専門治療の実施や療養困難症例に対する治療を提供するとともに、患者の生活状況を丁寧に確認し、認知機能・理解力に合わせた説明を実施

■令和8年度目標値

糖尿病看護外来年間延べ患者数 1,150人

- ・ **糖尿病看護特定認定看護師**により、患者の思いに寄り添いタイムリーで質の高い血糖管理を推進
- ・ 退院後に介護保険サービスなどの社会資源が必要な患者については、**ケアマネジャーや訪問看護と適切な連携**を図る
- ・ 「東京都区西北部糖尿病医療連携推進検討会」基幹病院として、行政、医師会及び歯科医師会等と連携し、地域における糖尿病の重症化予防やフレイル予防の活動を強化
- ・ 「いたばし糖尿病多職種ネットワークの会」において、地域の他職種に対する講演会やワークショップを開催するなど、地域連携を推進



【糖尿病看護外来（フットケア）】



【「世界糖尿病デー」の取組】

◆高齢者の特性に配慮した医療

- ・ 院内迅速対応システム（RRS）の一環として、**早期警告スコア（NEWS）**を活用し、クリティカルケア特定認定看護師を中心に重症化リスクの高い患者をスクリーニングして**重症化予防を推進**
- ・ 臨床虚弱尺度（CFS）を活用し、入院患者の状態を把握して適切な療養につなげる
- ・ あらゆる疾患の対象患者に対して、**ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の実施**とともに積極的な**退院支援**を実施
- ・ **低侵襲手術を積極的に推進**し、術後のQOL維持にも配慮することで、長期入院に伴うフレイルの悪化等の予防を目指す
- ・ **多職種による嚥下ラウンドを行い**、高齢者フレイル患者、脳血管障害患者などの**嚥下障害リスク**がある患者に早期介入し、誤嚥性肺炎を予防するとともに、適切な食事の提供や代替的な栄養方法を検討
- ・ 退院後の生活機能改善を目指したリハビリテーションの実施や、家族への介護指導、家庭の環境調整についての助言など、リハビリテーション療法士を含めた**多職種で退院支援を推進**



【クリティカルケア特定認定看護師】



② 地域における公的医療機関としての取組

区西北部二次保健医療圏内の病院、診療所の後方支援体制の強化に向け、救急医療によるかかりつけ医等の支援や、地域医療支援病院として、紹介患者に対する医療提供を通じて、効率的な医療提供体制を構築

◆救急医療

- ・ **CCUネットワーク、急性大動脈スーパーネットワーク**を中心に、ICU/ CCUを活用しながら積極的に心血管疾患患者を受入れ
- ・ 脳卒中急性期医療機関Sとして、SCUを活用しながら**脳梗塞超急性期患者**に対する血栓溶解療法、経皮的血栓回収術の適応となる患者を積極的に受入れ
- ・ 救急患者断り率の改善に向け、応需実績を共有するとともに、**不応需理由に即した対策を実施**

■令和8年度目標値

救急患者受入数 9,000人、救急車応需率 70%



【救急外来での患者受入】

◆地域連携の推進

- ・ 医療機関への訪問や連携会議、研修会等を通じてセンターの連携医制度をPRし、**連携医療機関及び連携医との関係をさらに強化**

■令和8年度目標値

紹介率 75%、返送・逆紹介率 85%

- ・ 連携医療機関へ医療機関専用オンラインシステムの利用促進に向けた訪問活動を強化し、**各種検査・各診療科初診予約患者の円滑な受入れを実施**



【特別講演会・連携懇親会
(令和7年度)】

◆災害・感染症等の緊急事態への対応

- ・ 新型コロナウイルス感染症を含む新興・再興感染症の発生・拡大時などの緊急事態において、**感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づく東京都との協定**に基づき、最大限の協力を行う
- ・ 令和6年度に見直したBCP（事業継続契約）に基づき実践的な訓練を行うとともに、災害発生時・感染症拡大時の対応力を強化するため、板橋区との災害時協定に基づき、区と各協定事業者・団体との情報共有を行う

■令和8年度目標値

災害拠点病院として災害発生を想定した院内訓練 1回
新興感染症患者の受入れを想定した院内訓練 1回



【災害対策本部設置・運営訓練（令和7年度）】



③ 安心かつ信頼できる質の高い医療提供体制の確保

◆安全で質の高い医療の提供

- ・ **インシデント・アクシデントレポート**を活用し、医療現場の安全性を高めるとともに、報告事例の分析や改善策の検討を通じて再発防止策を策定し、医療従事者全体で共有
- ・ 6Rの確認などにより**医薬品の適正使用を徹底**し、薬剤関連の重大事故を防止するとともに、高齢者のQOL向上及び医療安全の推進を目的に、**服薬簡素化キャンペーン**を引き続き実施
- ・ **転倒・転落による重大な障害を未然に防ぐ**ため、転倒・転落ワーキンググループを設置し、患者ごとのリスク評価を徹底し、個別の安全対策を実施するとともに、事例分析に基づく病室環境や注意喚起により、療養環境を向上

■令和8年度目標値

転倒・転落損傷発生率（レベル2以上）0.19%以下
 転倒・転落損傷発生率（レベル4以上）0%（発生0件）

- ・ **患者誤認防止**に向け、事例分析による環境の改善とマニュアル遵守を徹底するとともに、患者の協力も得ながら取組を強化
- ・ 新たに導入した**看護部門管理システム**を活用し、看護職員のキャリアビジョンを踏まえた資格取得支援の推進と、資格取得後の活用を通じて看護を充実
- ・ **診療看護師（NP）**取得者の診療科ローテーション研修を実施し、各科のニーズを把握するとともに資格取得者を活用
- ・ **病院機能評価の受審**に向け、センター内の体制を整備



【看護師による特定行為の実践】

◆患者中心の医療、患者サービスの向上

- ・ 患者満足度調査やご意見箱の結果等を踏まえ、改善策の実施と効果検証を行うなど、患者満足度の向上に引き続き取組む
- ・ **ボランティアの積極的な活用**、患者衣やタオルのセットレンタルなど、充実した療養環境に努め、患者サービスの向上を図る
- ・ 病棟や外来待合室等に整備した**WiFi環境の入院・外来患者へ認知度向上**に努め、患者の利便性向上を図る

■令和8年度目標値

入院患者満足度 94%
 外来患者満足度 89%



【ボランティアの活用】



①-1 高齢者の健康長寿と生活の質の向上を目指す研究

高齢者の健康維持・増進と自立した生活の継続のため、老化のメカニズムや老化制御などの自然科学的研究及び疫学調査や社会調査などによる社会科学的研究を推進

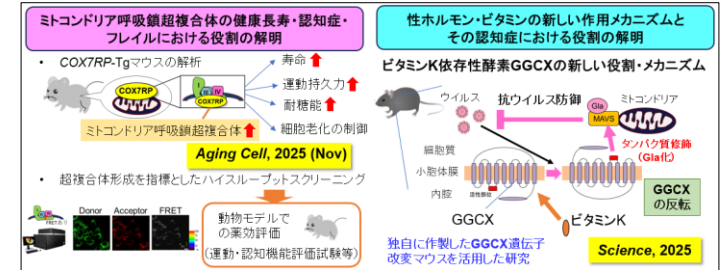
◆高齢者に特有な疾患と老年症候群を克服するための研究（自然科学系）- 1

○ 高齢者の難治性がんの早期診断と有効な治療法に関する研究

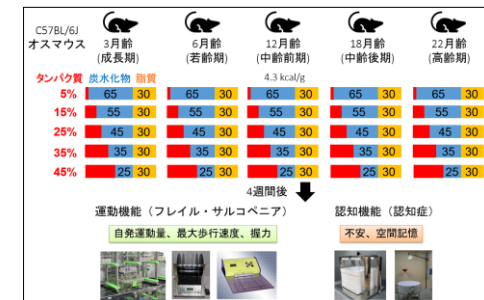
- ・ プロテオーム解析で発見した、膵がん細胞が腫瘍を形成するのに必要なタンパク質を減らすことによる **がんの進行の抑制効果** を検討

○ フレイルや認知症などの高齢者疾患の発症機構の解析

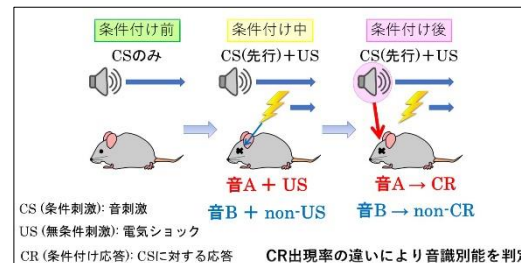
- ・ 健康長寿・認知症・フレイルなどにおける性ホルモン・ビタミンシグナル並びにミトコンドリア呼吸鎖超複合体の役割を解明し、それらに対する **新規診断・治療・予防法開発への応用** を推進(図1)
- ・ 各ライフステージにおける、**運動機能や認知機能に適した食事のタンパク質摂取比率** を決定(図2)
- ・ 認知症音楽療法の基礎となる音刺激(可聴域・非可聴域)の **脳機能への作用とそのメカニズム** を解明(図3)
- ・ 交感神経による **筋緊張調節と動脈系の調節との関係** 究明(図4)
- ・ アルツハイマー病の病態解明に向けて、APP (アミロイド前駆体タンパク質) など関連分子の代謝を指標にし、**認知症や加齢で見られる糖鎖変化の影響やメカニズム** を解析



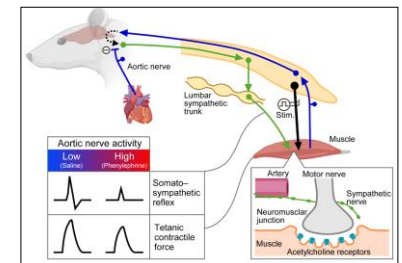
【図1】ミトコンドリア呼吸鎖超複合体、性ホルモン及びビタミンが老化・健康長寿に担う役割の研究



【図2】健康長寿に適した食事の三大栄養素バランスを決定



【図3】瞬膜反射条件付け学習による音識別能の解析



【図4】高齢者の転倒と関連する研究

①-2 高齢者の健康長寿と生活の質の向上を目指す研究

◆高齢者に特有な疾患と老年症候群を克服するための研究（自然科学系）- 2

○ サルコペニア、フレイル等老年症候群の克服に向けた研究

- ・運動機能低下などの早期診断バイオマーカー候補糖ペプチド探索のため、質量分析装置による**プロテオーム解析及びグライコミクス・グライコプロテオミクス解析**を実施(図5)

○ 様々な筋脆弱症に対する新たな予防・再生治療戦略の推進

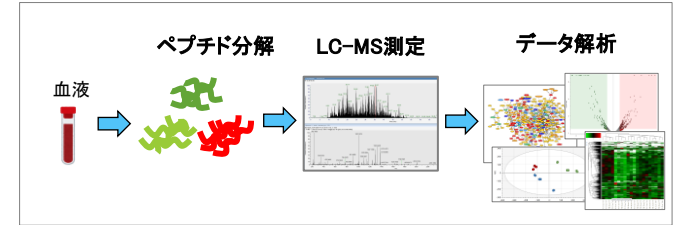
- ・骨格筋幹細胞に着目し、**筋再生医療開発に繋がる筋再生メカニズム**を解明(図6)

○ 認知症の早期診断と発症予測及び病態評価に関する研究

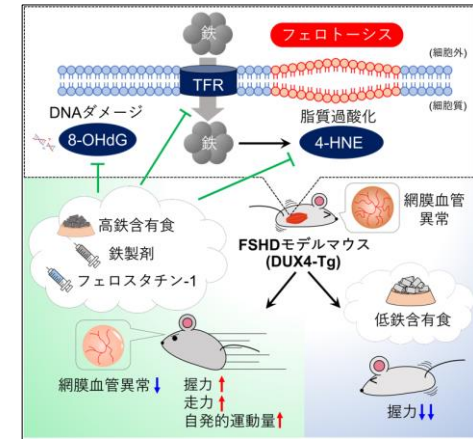
- ・センターの各部門と共同で、PETバイオマーカーを各種バイオマーカーと横断的かつ縦断的に解析し、**認知症や神経難病の診断精度の向上と病態を解明**
- ・タウPETの臨床使用に向けて、定性および定量測定の意義を検証し、**タウPET評価法の標準化及び普及**を推進(図7)
- ・神経変性疾患と関連したヒストン脱アセチル化酵素イメージング剤の**初期臨床試験並びに動態解析**を実施(図8)
- ・生前採取体液(髄液・血清・血漿)と、最終病理所見との実証研究を用いた認知症バイオマーカー研究を、病院部門と共同で実施

○ 高速遺伝子検査装置の早期診断実用化に向けた取組の推進

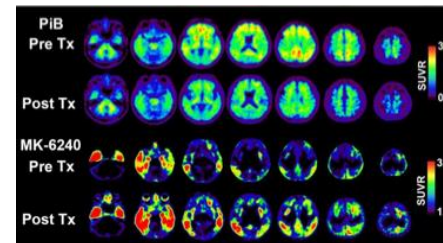
- ・令和6年度に理研、京大と共同開発した世界最高速度の遺伝子検査装置の実用化に向け、**対象疾患を拡充して臨床検体による実証試験を実施し、小型・簡便な装置の開発**を促進



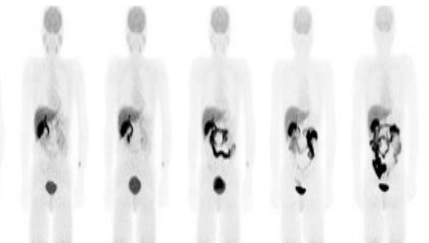
【図5】プロテオーム解析によるバイオマーカー探索



【図6】鉄代謝とフェロトーシス経路を標的にした新たな治療戦略



【図7】抗Aβ抗体治療による病態修飾評価を開始



【図8】異常タンパク質処理酵素イメージング剤の開発



①—3 高齢者の健康長寿と生活の質の向上を目指す研究

◆高齢者の地域での生活を支える研究（社会科学系）— 1

○ 社会参加・社会貢献とそれを支えるフレイル・認知症の一次予防の推進、社会関係の構築及び社会環境の整備に資する基盤的・応用的研究

- 1) 高齢者の健康維持や生きがい、孤立予防につながる多様な「通いの場」を自治体と住民が協働で進めるためのシステム構築について、PDCAサイクルに沿ったプロセスチェックシート等を活用し、**多様な通いの場の推進と効果評価**を取りまとめ(図1)
- 2) 高齢期における社会参加・社会貢献の促進を目的とした**世代間交流型・生涯学習型健康増進プログラム**を展開し、社会還元・実装を促進(図2)
- 3) 健康無関心層や社会的弱者など、これまで働きかけが難しかった対象層へのアプローチ方法について検討し、提言を行いつつ、**産学官連携による共同研究**（シルバー人材センターの有償活動による新たな参加者の推移を観察）を展開(図3)



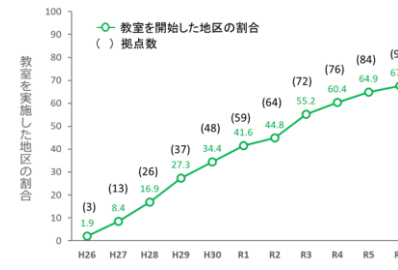
【図1】PDCAサイクルに沿った多様な通いの場の推進と評価

○ フレイルや認知症の進行機序を踏まえた早期スクリーニング、重症化予防に資する研究や、日常生活に不具合があっても希望と尊厳をもって暮らせる社会の創出に向けた研究

- 1) **認知症フレンドリー社会の実現**を目指す地域拠点の活動モデルを示し、認知症高齢者や一般住民を対象に、その効果を多角的に評価(図4)



【図2】通いの場における読み聞かせプログラム



【図3】フレイル予防教室開設数の推移



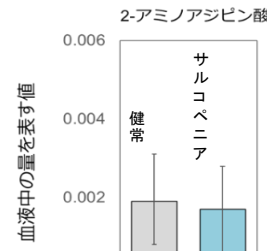
【図4】寺院を活用したプログラム



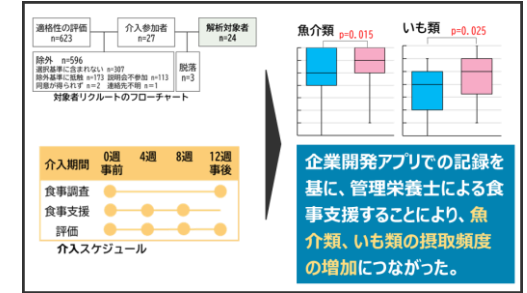
①-4 高齢者の健康長寿と生活の質の向上を目指す研究

◆高齢者の地域での生活を支える研究（社会科学系）— 2

- 2) 二次予防の観点から、フレイルやサルコペニア、認知機能低下の改善を目指した健診による **バイオマーカーの開発、介入プログラムの効果検証、社会実装への加速** を実施(図5)
- 3) 認知症の人への円滑な歯科治療提供体制整備に向けた研究や高齢者の **口腔及び栄養評価法の確立** のための壮年期から高齢者に至る基盤データの収集、産学連携の共同研究による **小型IoTデバイス×AI** を活用した食事摂取状況に関する研究を実施(図6)



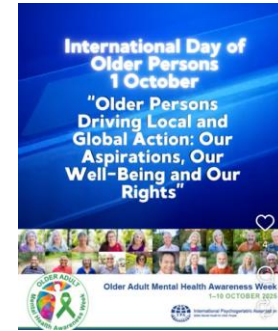
【図5】サルコペニア予測マーカー探索



【図6】高齢者の栄養改善に関する小型IoTデバイス×AIの活用

○ 地域コホート研究やレセプトの分析、IoTの活用などを通じた、対処行動、社会的包摂、医療・介護システムに関する研究開発

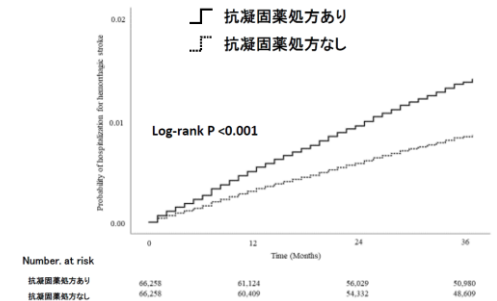
- 1) 日本における **ACP (アドバンス・ケア・プランニング)** の倫理的・法的理解と臨床実践との乖離を定量的に示す(図7)
- 2) 地域高齢者のウェアラブルウォッチによる日常生活の記録データ解析をもとに開発した「**東京Choujuアプリ**」を活用した **社会実装** を推進(図8)
- 3) 地域単位で収集された **レセプト・健診データ** や **長期縦断研究データ** を分析し、高齢者の特性を踏まえた **保健・医療・介護システムの構築** に資する研究を実施(図9)



【図7】ACP概念の混乱に関する実態把握



【図8】【東京Choujuアプリ】※画面イメージ



【図9】抗凝固薬の処方と脳出血による入院発生との関連



①-5 高齢者の健康長寿と生活の質の向上を目指す研究

トランスレーショナルリサーチを推進するとともに、研究内容及び研究成果について、パブリシティを通じて実装・社会還元に向けて取り組む

◆老年学研究におけるリーダーシップの発揮

(IRIDE, フレイル予防センター, スマートウォッチ事業の取組は別ページ参照)

- ・医療と研究の一体化というメリットを生かし、受託・共同研究、競争的研究資金など、外部研究資金（特に大型研究費）の積極的な獲得に努めるとともに、成果の実用化や臨床応用の推進、知的財産を活用

■ 令和8年度目標値

科研費新規採択率 33.0%（上位30機関以内）
 科研費新規採択件数 28件

- ・国内外の老年学関連学会において引き続き中心的な役割を果たすとともに、**老年学研究におけるリーダーシップを發揮**
- ・老年学関連学会において、当センターの研究成果を積極的に情報発信するとともに、LINK-BioBAY TOKYOにパートナー機関として参画し、企業や研究機関等との強固なネットワークを構築し、**共同・受託研究等への橋渡しや研究成果の実用化**に繋げる

■ 令和8年度目標値

論文発表数 680件
 （うち英文での論文発表数 480件）
 学会発表数 1,300件



【日本老年学関連学会学術集会（令和8年度開催）】



【LINK-BioBAY TOKYOの取り組み】

- ・センター内において、引き続きセミナーや研修など自己啓発の機会を提供するとともに、国内外からも研究員や留学生等の受け入れを行い、**老年学研究においてリーダーシップを發揮する人材を育成**
- ・IRIDEでスタートしたバイオバンクで収集、保管した血液・髄液・DNA等の生体試料や臨床データを有効活用するため、**バイオバンクの運営体制を整備**し、広報活動を積極的に展開し、生体試料や臨床データの内部・外部提供を推進

①-6 高齢者の健康長寿と生活の質の向上を目指す研究

◆研究成果の社会への還元

- ・研究所のテーマ研究等を対象として、外部評価委員会において、外部有識者が研究成果及び研究計画の実現可能性を踏まえた評価を行う。
- ・**産学連携の積極的な推進**、産学連携コーディネーター配置による新規共同研究の受入れや、保有特許の定期的な見直しを行うなど、**研究者への包括的な支援を推進**
- ・ホームページにおいて、最新のがんバイオマーカーや医薬組成物を中心とする研究シーズの定期発信や、LINK-BioBAY TOKYOにパートナー機関として参画、BioJapan等のビジネスマッチングイベントへの出展により、**積極的な特許ライセンス活動を展開**し、新規共同研究や大型プロジェクトに繋げていく

■ 令和8年度目標値

特許出願件数 5件

転載・引用許可申請への対応件数 100件

- ・臨床と研究の両分野が連携できるメリットを生かし、オンデマンド配信も活用しながら「東京都健康長寿医療センター老年学・老年医学公開講座」などを実施
- ・行政が実施する講演会等への講師派遣、取材及びプレス発表等のパブリシティを通じて、**研究成果を積極的に発信**。さらに、より見やすく、利用者の利便性を高めるため、**ホームページのリニューアル**を実施
- ・2025年ノーベル生理学・医学賞を受賞された坂口先生(1995年から1999年まで当センター在籍)による特別公開講座を実施

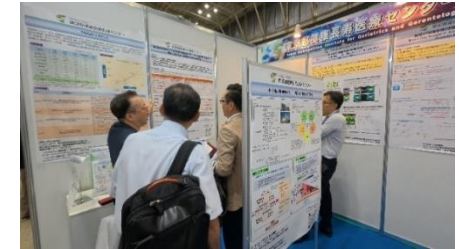
■ 令和8年度目標値

YouTube再生回数 18,000回/月

X (旧:Twitter) フォロワー数 2,400人 (年度末)

HPアクセス件数 30万件/月

老年学・老年医学公開講座 4回



【BioJapan
(令和7年10月8日開催)】



【ホームページ
リニューアルイメージ図】



【特別公開講座
(4月開催予定)】

② 法人の資源を活用した政策課題への対応

病院、研究所で培った知見、ノウハウを活かす認知症支援の推進に向けた取組やフレイルの予防・早期発見及び健康の維持・増進に向けた取組等の充実を図る

◆介護予防・フレイル予防の取組 (フレイル予防センターの取組は別ページ参照)

- ✓区市町村・地域包括支援センター職員、医療福祉専門職等に対する各種研修（25回）
- ✓通いの場等の介護予防・フレイル予防に取り組む職員等に対する相談支援（300件）
- ✓PDCAサイクルに基づいた、通いの場や総合事業全般に関する評価支援（3自治体）
- ✓通いの場への予防プログラム「ちょい足しプログラム」等の手法を用いて、
区市町村における介護予防等総合事業の推進を支援（5自治体（内、島しょ部3自治体））
- ✓令和7年度に実施した都内自治体における縦断調査を踏まえた効果評価マニュアルを作成
- ・ **東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター事業や介護予防（主任）運動指導員養成事業**の取組により、センターが有する介護予防・フレイル予防のノウハウの普及と人材育成を促進



【ちょい足しプログラム講習の様子】

◆認知症との共生・予防の取組 (認知症未来社会創造センター (IRIDE) の取組は別ページ参照)

- ・ 認知症支援推進センターにおいて以下の取組を実施し、**認知症高齢者を地域で支える体制を構築**
- ・ 新たに、病院勤務医やMSWを対象に、認知症対応力向上のための研修を配信方式により実施（200人）
- ・ **認知症抗体医薬による治療体制の整備**を図るため、医療機関等への相談窓口の設置、認知症疾患医療センター職員対象の研修実施、都民への普及啓発のための講演会等を開催するとともに、導入後の都内における課題分析、対応策の検討等を行う



【認知症サポート医フォローアップ研修】

認知症サポート医フォローアップ研修	4回
認知症疾患医療センター職員研修	2回
認知症地域対応力向上研修	3回
島しょ地域の認知症対応力向上研修	4回
認知症抗体医薬対応支援事業疾患センター職員研修	2回
医療従事者への認知症対応力向上研修	2回



① 認知症未来社会創造センター(IRIDE)

センターのこれまでの認知症研究の成果を活かし、共生社会の実現を推進するため、東京都認知症施策推進計画を下支えする研究を積極的に展開

◆ 共生社会の実現に向けた取組

- ・ 共生社会の実現に向けた取組を区市町村へ波及させるためのマニュアルを作るために、高島平団地における認知症支援のための常設型地域拠点において共生のエビデンスを創出

◆ 統合コホートを活用した認知機能低下抑制研究

- ・ 地域コホートビッグデータを活用した研究成果の社会実装を推進
- ・ MCIの予後に関する認知機能追跡研究等から、認知機能低下の防御因子に着目した認知レジリエンス研究を継続

◆ 認知症検査・早期診断に資する取組

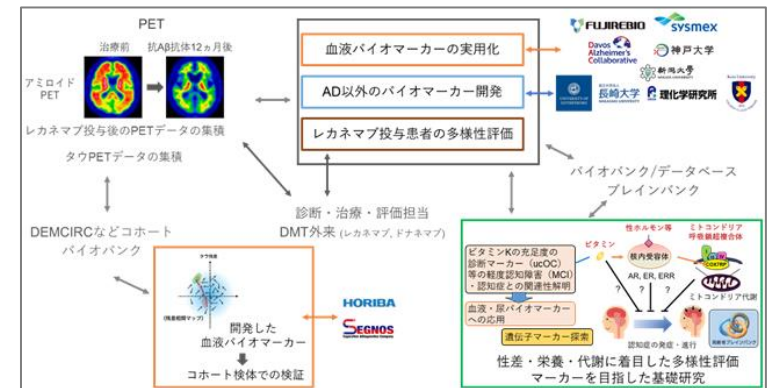
- ・ 簡易・低コスト・低侵襲で実施できる認知症検査手法として、血液から脳内の原因物質を検出できるバイオマーカーを開発
- ・ ドナネマブ投与による脳内原因物質の除去状況の読影を支援できるツールを開発し、ドナネマブのモニタリングに活用
- ・ ビタミン、性ホルモン、並びにミトコンドリアのエネルギー代謝に係る呼吸鎖超複合体の関連因子・シグナルが脳神経機能および認知症の発症・進行に担う役割を明らかにし、新しい診断・治療・予防法の開発につなげることを目指す

◆ TOKYO健康長寿DBの運用

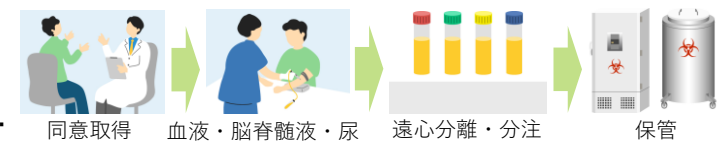
- ・ バイオバンク、ブレインバンク、各種臨床データに加え、地域コホートデータ等を統合し、研究基盤としてのデータベースを整備
- ・ バイオバンクの運営体制を整備し、広報活動を積極的に展開することで、収集・保管した血液・髄液・DNA等の生体試料とそれに紐づく臨床データの内部・外部への提供を推進



【認知症検診の啓発パンフレット】



【IRIDEで行われている様々なバイオマーカー研究】



【生体試料の収集】



② アプリを活用した高齢者の健康づくり推進事業

事業概要

- ・東京Chojuアプリ習得データに基づく区市町村フィードバックシステムを構築
- ・**東京Chojuアプリを市販の別機種でも対応**できるよう基礎データを蓄積しつつ、孤立・孤独等に対応できるよう、ライフログデータを用いた社会的フレイルの判別モデルを構築
- ・デジタルコホート研究基盤を構築するため、企業と連携し、都民が東京Chojuアプリを継続して利用できる環境を模索
- ・病院部門をはじめとした**医療機関との連携**による、AI医療・ウェアラブル機器・医療データの活用を模索



【東京Chojuアプリ】※画面イメージ

③ フレイル予防センター

事業概要

○ 東京都医師会、地区医師会、板橋区などの自治体、多職種団体と連携し、**フレイルに対する包括的対策を推進**

- ・東京都医師会開催の年2回のフレイルサポート医研修会を支援 ※
- ・地区の医師会や自治体と連携し、フレイルサポート医と自治体や多職種の連携等に向けた研修や、伴走支援を実施 ※
- ・e-ラーニングによるフレイルサポート栄養士の研修を実施
- ・日本栄養大学と連携し、アドバンスコースのフレイルサポート専門栄養士研修会および研究講演会を開催
- ・フレイルサポートナース養成研修を実施
- ・外来患者を対象とした「フレイル予防：院内通いの場」を開催
- ・入院患者の「電子カルテによるフレイル評価」を用いた退院支援やケアプラン作成などの活用を推進

(※ 東京都 フレイルサポート医地域連携支援事業)

■ 令和8年度目標値

- フレイルサポート医養成数 150名
- フレイルサポート栄養士、看護師等養成数 120名
- 電子カルテによるフレイル評価 年間1,600人



【フレイルサポート医と多職種との連携研修会】

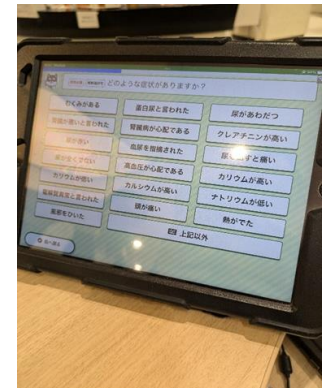
① 高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成

- **健康長寿医療研修センター**が中心となり、医療・介護人材の育成に向けて組織的かつ効率的に対応
 - ・センターの取組や研究成果を学ぶための**各国大使館や国内外の大学・病院・行政機関等**からの**視察、研修**を積極的に受入れ
 - 令和8年度目標値
視察・研修対応件数 25件
 - ・学生見学や学生講義等を行い、**研修医の確保・育成**を積極的に進めるとともに、他の医療機関や研修関連施設と連携し、**高齢者医療や老年医学の質の高い研修教育**を行う
 - ・看護基礎教育機関、日本看護協会、地域医療機関等へ研修講師として看護師を派遣し、**高齢者医療・看護に関する専門知識の実践的スキルの普及**を図り、次世代の医療人材育成や地域における高齢者医療の質向上に寄与
 - ・特別研究員、連携大学院生、研究生を積極的に受け入れ、老年学・老年医学を担う研究者を育成
 - ・内科専門医の資格取得に必須の**JMECC講習**を院内で定期的を開催するため、**JMECCインストラクターを育成**

②-1 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

◆地方独立行政法人の特性を生かした業務の改善・効率化

- 効率的かつ効果的な業務運営を推進するため、法人の意思決定機関である理事会や、病院部門と研究部門の一体的運営を目指して設置されたセンター運営会議等で迅速かつ十分な議論を行うとともに、各事業に係る体制等の見直しを図り、**都民ニーズや社会情勢の変化に対応した効率的・効果的な業務の推進**を図る
- DXの積極的な推進による業務の効率化を図り、職員のQOL向上を実現
 - ・**AI問診等**を活用し、**医師、看護師、DC（ドクターズクラーク）の業務負担を軽減**、より専門的な業務に集中できる環境作りを推進
 - ・業務メールについて、利便性の向上を図るため**クラウド版への更改**を実施
 - ・**ペーパーレス会議の推進**に向け、ネットワークや端末環境の整備を推進
 - ・より見やすく、利用者の利便性を向上させるため、**ホームページのリニューアル**を実施



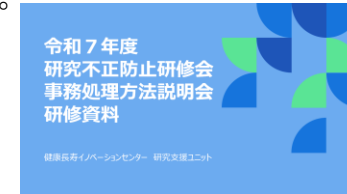
【AI問診】



②-2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

◆適切な法人運営を行うための体制の強化

- ・全職員を対象としたコンプライアンス研修の実施、コンプライアンス推進月間、ハラスメント防止月間を活用して、センター職員の**コンプライアンス（法令遵守）を徹底**する。悉皆のコンプライアンス研修については、令和7年度に導入した**e-ラーニング方式により、受講率100%**を目指す。
- ・研究活動が適切に実施されるよう、研究費使用に係るマニュアル作成、啓発活動、監事との連携強化、モニタリング及びリスクアプローチ監査等による課題の把握・検証等を行い、**研究費の不正使用を防止**する。また、研究不正防止研修会や研究倫理教育（e-ラーニング）を実施し、**不正防止に対する意識の浸透とルールの徹底**を図る。



【研究不正防止研修会】



【公正な研究活動及び適切な研究費使用に向けた理事長の決意表明】

③ 財務内容の改善に関する事項

◆収入の確保とコスト管理の一層の強化

○ 病院経営を取り巻く環境が厳しい中、**積極的に医業収益を確保するとともに、可能な限り費用の削減を行い、経営基盤の安定化に努める**

<収入の確保>

- ・令和8年度診療報酬改定など医療を取り巻く環境の変化に迅速に対応し、**請求できる診療費等について確実に請求を行うとともに、新たな施設基準の取得を積極的に行うなど、体制強化に努める**
- ・患者の快適な療養環境を提供するため、**有料個室の有効活用を推進**
- ・令和7年度に導入した**病床管理システム**を活用して、DPC入院期間を踏まえた**効率的な病床運用を推進**
- ・医療と研究の一体化というメリットを生かし、受託・共同研究、競争的研究資金など、**外部研究資金の積極的な獲得**に努めるとともに、成果の実用化や臨床応用の推進、知的財産の活用を図る

<コスト管理の体制強化>

- ・材料費の縮減に向け、**ベンチマークシステム**を活用した**効果的な価格交渉**などにより、材料費対医業収益比率の抑制に取り組む。また、**他の病院群との診療材料等の共同調達に参画**
- ・「**契約監視委員会**」の活用による合理的な契約手続きの促進
- ・高額医療機器については、「**医療機器等整備検討委員会**」において、必要性や収支計画に基づき適切に整備を実施



④ 法人運営におけるリスク管理の強化

- 全職員を対象としたe-ラーニングによる「**情報セキュリティ・個人情報保護・コンプライアンス研修**を実施するとともに、情報セキュリティにかかわる注意喚起を定期的実施することで、情報セキュリティに対する職員の意識向上を図り、事故を未然に防止

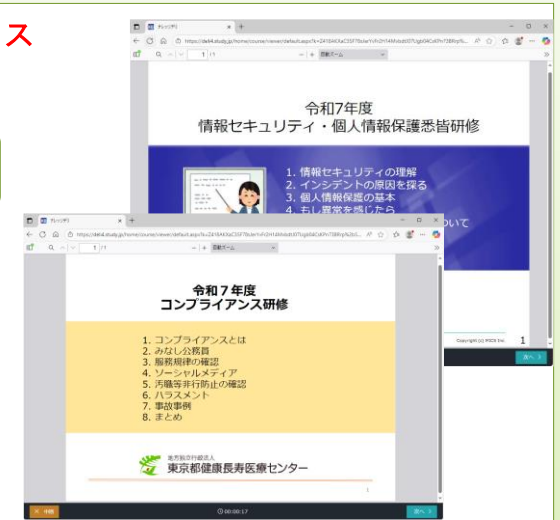
■ 令和8年度目標値

情報セキュリティ、個人情報保護研修及びコンプライアンス研修参加率 100%

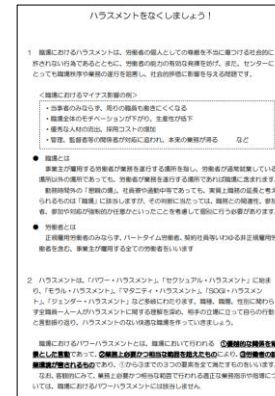
- 適正な個人情報管理を徹底するため、**個人情報を含む文書の取扱い等公文書管理に係る研修を実施**するとともに、改正個人情報保護法に基づく諸規程の周知を実施

- 「ハラスメントの防止に関する要綱」に基づき、パワーハラスメント、セクシュアルハラスメントや妊娠・出産・育児休業等に関するハラスメントを防止するための体制を整備し、ハラスメント相談窓口を職員に周知するとともに、内部通報制度を適切に運用し、**職員が働きやすい健全かつ安全な職場環境を整備**する。また、ハラスメントはあってはならないものである旨のメッセージを定期的に周知

- 働き方改革の推進のため、年次有給休暇の取得促進や超過勤務時間の管理を定期的に適切に行うとともに、健康診断の受診促進やストレスチェック、**メンタルヘルス研修（ラインケア・セルフケア）等の充実**を図り、安全衛生委員会を中心に快適で安全な職場環境を整備



【eラーニングによる「情報セキュリティ・個人情報保護・コンプライアンス研修」（令和7年度）】



【「ハラスメントをなくしましょう！」（職員通知）】